

令和3年度（2021年度）第1回伊丹市立総合教育センター運営協議会協議内容まとめ

日 時 令和3年（2021年）6月29日（火）
場 所 伊丹市立総合教育センター 2階 研修室
委 員 深野 康久委員〈会長〉、佐藤 幸宏委員〈副会長〉、小中村 政則委員、
米田 博一委員、櫻井 美也子委員、西本 大和委員、
馬場 一憲委員、早崎 潤委員
事務局 永嶺 香織、奥野 隆哉、戸田 征男、中田 智継、長谷 慎一、濱野 洋介、
増田 康児、片岡 栄二郎

1 所長あいさつ

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 令和3年度総合教育センター組織図確認

(2) 令和2年度の事業体系報告

(3) 令和2年度の実施状況

・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の対応や、夏季休業日が授業日になったこともあり夏季研修内容を見直した。また集合型からオンラインへと実施方法も変更しながら実施した。研修講座の回数は減少したが、制限のある中で、先生方の研修の機会を確保した。

(4) 令和3年度の事業体系全体説明

・研修については、国が示す教育の方向性や伊丹市が課題とするものに対する研修を主要施策としている。専門研修の授業力向上講座では今年度は ICT 機器の活用に関する研修も盛り込んでいながら先生方の支援をしていきたい。また情勢などを注視しながらオンラインやアウトリーチを用いて先生方の学びも止めることが無いように努力していきたい。

・調査研究は『校内研究の活性化』『授業におけるタブレット活用の研究』『教育支援センターにおける効果的な支援』の研究を進めていく。

・教育の情報化について昨年度は「校務の情報化」、「教科指導における ICT 活」、「情報教育」という3つの枠組みで進めていたが、今年度新学習指導要領にも情報活用能力が育成すべき資質能力ということが示されたので「情報活用能力」、「校務の情報化」と変更した。

・教育相談、不登校児童生徒支援それぞれについては継続の事業となるが子ども達が多様化しているので、運営方法を見直し、改善しながら進めていく。

(5) 事業別令和2年度の成果と課題及び令和3年度の実施方針について

I 研修

「職務研修・一般研修、授業力向上（カリキュラム）支援センター」についての説明

II 調査研究

「校内研究の活性化に向けた校内研究の推進、授業におけるタブレット活用研究、教育支援センターにおける効果的な支援」について説明

〈質疑①〉

・研修の部分について、コロナの影響で注意しているところがあれば聞きたい。これまでと同様では事業ができないのではないか。

〈回答①〉

・集合が難しいため Zoom で開催しているが、グループ討議の実施に困難さがある。集合型であればお互いに意見交換できていたが Zoom を活用する中でどのようにしていけば良いか研究を進めている。前回 Zoom のブレイクアウトルームを使って話し合いを行ったが効果的な実施方法については検討を進めていく必要がある。

〈質疑②〉

・オンラインで授業ができるなら学校に行かなくても良いのではという話が出てきており、それが今後大きな流れになるかもしれない、ということを警戒している。やはり対面とオンラインの良いところと悪いところを注意していかないといけないと思っている。

一方、便利なツールなので積極的に使用することも必要。大阪のあるところでは研修を増やそうとしている。負担は増えるので軽々しくは言えないが、集まる必要がないため、回数を増やそうとしている。大学の授業では自分の講義を学生が録画していた。うまく使えばそういったことも可能である。

調査研究結果をかつては印刷物で、今は HP で公表しているがそのあたりの進捗状況はどうか。学校の支援とは別の業務が出るので軽々にはいえませんがアプローチできる方法をどう考えているかお聞きしたい。

〈回答②〉

・今後検討していく部分もあるが、例えば、校内研究については「校内研修マニュアル」を、タブレット、ICTについては「ICT活用マニュアル」を作成し、これは先生方に見てもらうためのマニュアルであるが、研究成果を織り交ぜ改訂しながら先生方がいつでも見てもらえるように考えていく。不登校については生徒指導担当者会での提供でかえさせていただいている。

〈意見〉

・報告書に書くことで市民に知ってもらえると考える。

III 教育の情報化

〈質疑①〉

・自校では全校集会を Zoom で行っている。阪神北少年サポートセンターによる情報モラ

ル教室実施。休み時間の10分間では準備ができず、15分20分とかかってしまう。学校それぞれのやり方は有ると思うが、接続に時間がかかっている各校の現状を把握していただき、教えていただけるとありがたい。

〈回答①〉

・各校の活用法や使い方は情報共有していきたいと考えている。担当者会でそういった情報があればお伝えしていきたい。またトラブルにはいつでも情報化グループに連絡いただければ支援させていただく。

〈質疑②〉

・現在、学校として持ち帰りや授業での取り組みなど使っているが、今までと比べて効果的な使い方ができているか、効果的な使い方とはどのようなものか、なかなかイメージが湧かない。入ってくる情報ではこういう使い方をしたいというものがない。教員も情報が入ってこない。自分たちから探すべきではあるが授業での効果的な活用について考えてほしい。

2点目は学校のモニターが小さくうまく活用できていない。iPadを使ってもモニターで見えないとうまくいかない。昔は大型の画面上で操作ができたが今はそれが無い大型の画面上で操作できるようなものを入れていただけないか。

〈回答②〉

・授業での効果的な使い方について、授業がICT一辺倒になるのではなく特性を十分に生かした使い方は必要であり、そのような事例を集めている。ネットワークを使っていつでも見られるような事例集の作成を検討する。

・大型電子黒板はタッチして入力できることで効果が大きかったが、台数が限られているため、普通教室に大型提示装置を整備した。後ろから見づらいこともあるのは事実だが、タブレットを活用しての資料配付など効果的に使って後ろの子どもも見ることができる。

・授業での活用についてお伝えしたい。プリント配布など時間がかかるがタブレットなら一瞬で終わるため、その時間を個別対応に使える。ある先生は授業の振り返りをタブレットで撮影し提出させている。そのデータを空き時間に確認し、次の授業で前回わからなかった子どもに対しての声かけの質が変わるなど、そういったICTを媒体として授業の質があがるような事例も挙がっているのでそういったことも紹介していききたい。

・授業の中でどのように使えば良いかという課題に対して、指導主事を学校に呼んでいただき、授業を見させていただくことで、その場で活用について話ができる。校内の授業研究でICTを使う場面を設定していただき、ぜひ指導主事を学校に呼んでいただければと思う。

〈意見〉

・事例集を楽しみにしている。また内容やこの研修会が良いといったことについて情報をいただきたい。

IV 教育相談について説明

V 不登校児童生徒の学校復帰支援について説明

〈質疑①〉

・不登校児童生徒支援について意見と質問を兼ねてお願いします。自校でも不登校児童が増えている。不登校児童の保護者にもやまびこを紹介するが、せつかくの施設が活用しづらい、ハードルが高いという印象を持っている。

やまびこの対象年齢が小学校4年生以上だが、1年2年での不登校児童が増え対策に苦慮している。予算や不登校支援について方策を練られていて考えていただいているのは伝わる。学校の実態を伝えると別室登校から教室に上がれない児童がいる。心の関わりがあるので子どもとの関係を築ける常駐する人がほしい。人的配置については予算もあり難しいと思うが、学校でも保護者との関係構築や家庭訪問など取り組んでいることも知っていただき、学校に来ていただいて子ども達と関わられるような人がほしいと思っている。

〈回答①〉

・保護者も子どももやまびこを希望するのであれば最大限の配慮をした上で受け入れたい。小学校4年生以下の児童について、低学年でも学校に来づらい子どもがいることは把握している。ただ低学年はその子に寄り添った指導が必要になる。やまびこではどちらかということと基本的には自主学習ができるということで進めている。低学年が来るとなると指導体制を整えないと子どもにとって良くない。他の市町の状況を聞きながら今後検討していきたい。

〈質疑②〉

・教育相談の中に医療相談と医療発達相談があり、学校でもどちらかわからないことがある。混同しやすい名称なので今後検討してほしい。

〈回答②〉

・わかりやすい名称について検討していく

(6) 事業全体についての協議

〈質疑①〉

・各項目に金額が書いてあるが予算と決算は見られないのか。

〈回答①〉

・運営協議会の中では予算と決算の明細についてはお示ししていないが、それぞれの事業全体金額をお示ししている。

〈意見〉

・教育相談の中で関係機関との連携が大切だということで、効果的な支援対策の構築とあるが、なかなか実施するのが難しいところはある。新たな取り組みについて聞きたいが試行錯誤しながら連携をとってほしい。とくに発達相談は就学前が多い。幼稚園、子ども園、保育園をどう受け止めるかが課題になる。そこも含めて今後体制を構築してほしい。

〈意見〉

総合教育センターは学校教育部の中にあるので、いただいた意見をもとによりよい方向に進めていく

〈意見〉

ICTなどコロナで進んだものもあれば、戻ったものもある。無自覚でコロナ前に戻らないよう、進んだものはそのまま進める、遅れているものは追いつくことが課題である。伊丹市の色々な教育の活動は非常に進んでいる、というのが感想である。教育委員会や教育センターと学校の間には壁ができてしまい、一緒に進めていないということを知ることが多いが、ICT教育など学校に行き一緒に学んでいこうということが伊丹の姿勢なのでぜひ進めてほしい。

4 副会長あいさつ